



平成 29 年 4 月 27 日

岡山大学病院に医科歯科連携で対応の 「侵襲性歯周炎センター」を設置

若年層での発症が多く、通常の歯周炎治療だけでは治りづらい侵襲性歯周炎について、岡山大学病院は 5 月 1 日、医科歯科連携で対応する「侵襲性歯周炎センター」を開設します。10 代から発症し、進行が早く症状が重度な歯周病に対して、これまで対応していた歯周科を中心とした歯科系診療科だけではなく、医科系診療科とともに、診断と治療、そして支援と、総合的に対応することを可能にしました。

センターでは、歯周科や小児科、小児歯科が中心となって治療や診断に取り組むほか、内科的な病気が関わっていることも多いため、総合内科も中心的な役割を担います。さらに、患者への再発予防指導や心理的なサポートなど、その他の診療科とも連携し、包括的に対応します。今後は臨床研究中核病院としての中心を担う“岡大バイオバンク”を活用して、病態解析研究も行っていきます。

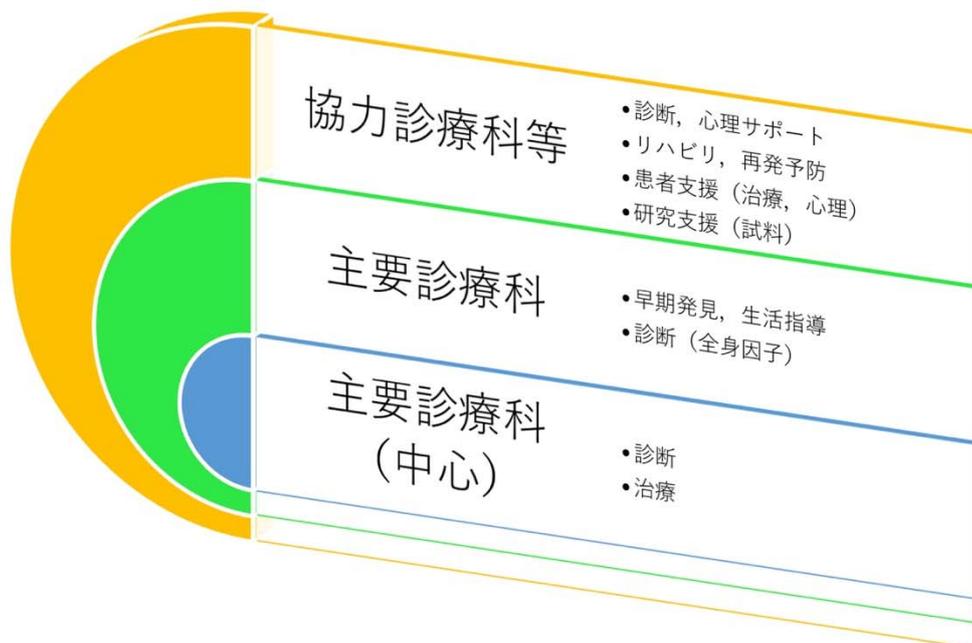
侵襲性歯周炎は主に 10～30 代で発症しますが、早ければ小児期、時には 3 歳以前で発症することもあります。罹患率は 0.05～0.1%と比較的低いものの、中高年で発症する一般的な歯周病に比べて進行が早く、患者は 20 歳までに重度の骨欠損や歯牙の喪失を引き起こす恐れがあります。患者年齢が比較的若いため、小児科や小児歯科との連携は必須です。治療の基本は、通常の歯周炎と同様に歯周基本治療による細菌感染源の除去ですが、歯周炎の治療を始める前に、全身性の要因を管理することが重要となるため、総合内科をはじめとする他の医科系診療科との連携も必要になります。

岡山大学病院では、侵襲性歯周炎の早期の発見と治療に加え、心のケアも含めた総合的なサポートを行うため、医科歯科連携で治療や支援に取り組む「侵襲性歯周炎センター」を設置します。歯周科や小児科、小児歯科が中心的な役割を担いますが、背景に内科的な病気がある事も多いので、総合内科も中心的な役割を担います。その他、歯科放射線・口腔診断科、精神科神経科、小児神経科、矯正歯科、クラウンブリッジ補綴科、咬合義歯補綴科、予防歯科、看護部、歯科衛生士室とも協力し、包括的に対応します。

侵襲性歯周炎は通常の歯周病治療だけではなかなか治らない難治性の病気であるため、一般歯科治療では抜歯を受けてブリッジや義歯などの人工物を用いて機能の回復を図っていました。岡山大学病院では、早期に歯周外科療法を行って細菌感染源を除去するとともに、歯周ポケットを外科的に除去して骨を整形することによって、患者が口腔衛生を管理できるようにしています。さらに、若年層では歯周組織が再生しやすいので、再生療法（増殖因子や骨移植の応用）を行い、歯槽骨や歯根膜の再生を促し、歯周組織を再生しています。また、長期に経過を追って病気の原因の解析や治療法の評価を行っており、今後は岡大バイオバンクも活用しながら病態解析研究を行い、歯科治療のさらなる発展へ貢献していきます。

センター構想

1. 主要診療科（中心）は、歯周科
2. 主要診療科は、小児歯科，小児科，総合内科
3. 協力診療科等は、歯科放射線・口腔診断科，精神科神経科，小児神経科，矯正歯科，クラウンブリッジ補綴科，咬合義歯補綴科，予防歯科，看護部，歯科衛生士室，バイオバンク



<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 歯周病態学分野

岡山大学病院 歯周科

教授（科長） 高柴 正悟

（電話番号） 086-235-6677, 6675

（FAX番号） 086-235-6679